

会 議 等 結 果 報 告 書

令和 7 年 3 月 1 2 日

1. 会議名 ながさき環境県民会議 4 R 部会（令和 6 年度第 2 回）

2. 日 時 令和 7 年 2 月 1 2 日（水） 1 4 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0

3. 場 所 長崎県庁行政棟 3 階 3 0 4 ・ 3 0 5 会議室

4. 出席者 別添名簿のとおり

5. 内 容

（1）開会 ・ 赤澤課長あいさつ・中道副会長あいさつ

（2）議事

① 4 R ・ ゴミゼロ事業「生ごみひと絞り事業」 ⇒ 事務局で実施方法を再検討し、後日依頼。

② ゴミゼロながさき実践計画 ⇒ 特に意見なし（承諾）

③ ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション 1 2 アンケート結果 ⇒ 特に意見なし（承諾）

④ 令和 7 年度スケジュール ⇒ 特に意見なし（承諾）

⑤ その他（①の続き） ⇒ 事務局で実施方法を再検討し、後日依頼。

6. 主な協議内容及びご意見

【① 4 R ・ ゴミゼロ事業取組紹介】 ○ 委員 ● 事務局

（生ごみひと絞り事業について）

○ 「生ごみひと絞り事業」を始めた理由を知りたい。10 年前諫早市衛生組織連合会が同じものを配布したが、あまり普及していない。資料②-1 の様にみかんの皮をシンクに捨てるのは、水分を含ませてしまう方法。水分を含ませない努力が必要（公募委員：中島委員）

⇒ ● 事務局回答：本県は、特に紙類と厨芥類が一般廃棄物の中で大きな割合を占めている。これらの削減対策を重点的に取り組む必要があり、今年度から始めたもの。

○ 消費者の意識が最も大切。約 20 万人の会員に向けて声かけ・チラシ配布など協力できることがあるかも。生ごみひと絞り事業アンケートの自由記載部分を詳しく知りたい。（長崎県生活協同組合連合会：高木事務局長）

⇒ ● 事務局回答：水切り器具を今後使用したくない理由として、以下のような回答があった。
「器具を使用した後、その器具を洗うひと手間が増えるので、手で絞った方が、手間がかからず良いと思ったから。」「素手で絞った方が早いから。」

※詳細は別添「生ごみひと絞り事業アンケート結果」参照

○ 水絞り器具は不用になればごみになるため、ごみを生み出さない方法が良い。自宅では生ごみを全部乾燥させていて、ネットや三角コーナーがなくても炊事可能。（公募委員：松本委員）

○ 調理時の工夫（野菜の皮をむかずに食べる）は食育にもつながる。（4 R 副部会長：中道委員）

(先行自治体や市町の取組について)

○排出量が少ない都道府県はどのような取組をしているのか。県内の市町村で、排出量が少ない自治体や多い自治体がどこなのか教えていただきたい。(県クリーン事業協同組合：菅原理事)

⇒ ●事務局回答：以下のとおり。

- ・令和４年度１日１人当たり総排出量少ない順から京都府（770g）、滋賀県（789g）、神奈川県（801g）の取組を紹介。 ※詳細は別添２「先行自治体の取組」参照。
- ・県内市町では、長与町（697g）、時津町（795g）を紹介。

※詳細は別添３「令和４年度一般廃棄物処理事業実態調査結果（抜粋）」を参照。

- ・県では市町が構成する廃棄物対策協議会を毎年開催し、先行事例を紹介している。
- ・先般開催した廃棄物対策連絡協議会の中で、ストックヤードを設け、紙ごみを収集するという自治体もあったが、収集量が下がったという話があった。原因としては、紙ごみをストックヤードに持っていくことが面倒、ごみとして出した方が簡単とのこと。

【②ゴミゼロながさき実践計画】

○当協議会では県の照会とは別にシートを作成し、会員に回答を依頼。回答してくれるところもあれば、回答をしないところもある。取組結果を検証していくことも重要。(長崎県生活学校連絡協議会：管理事)

○３Ｒに対しての個人的な考え方だが、元栓を閉めるのが一番早い。ごみを出さない、ごみゼロであることが必要。(４Ｒ副部長：中道委員)

【③ながさきデコ活 ゼロカーボンアクション１２アンケート結果】

○佐々町の地元の小学校から自宅にお知らせが届き、その学校の生徒が「わが家の省エネ日記」に参加し、認定証が配布されたと記載されていた。わが家の省エネ日記の取組は知らなかったため、県のどの課でされているのか、詳しい内容を知りたい。

⇒ ●事務局（地域環境課）回答：以下のとおり。

- ・県内全ての小学校の４～６年生を対象に配布している。７月から９月の任意の２週間、家庭で省エネアクションに取り組んだ結果を記録したシートを学校に提出し、県から「参加賞」と「省エネチャレンジ認定証」がもらえるという取組。

○「わが家の省エネ日記」の取組など小学生を対象に行っている取組については、委員や温暖化防止部会の方にも情報共有していただきたい。(公募委員：中島委員)

○知事が出演している「デコ活」CM動画のGoogleアナリスクなどの検証結果を教えてください。(４Ｒ副部長：中道委員)

⇒ ●事務局（地域環境課）回答：以下のとおり。

- ・約半年で表示回数６５１万回、県民１人当たりでは５回表示されたことになる。
- ・３５～４４才の女性に最も多く表示されている。
- ・デバイス別の割合は、モバイル４割、TV画面が４割、その他がタブレット等となる。

【④令和7年度スケジュール】資料⑤にて説明し、特に意見なし（承諾）

【⑤その他（生ごみひと絞り事業について追加協議）】

●事務局：本日のご意見「生ごみを出さないこと、野菜の皮も食べる、シンクに捨てずに水を含ませない努力をする、自然乾燥させる」を参考に実施方法を再度検討し、委員の皆様
に改めて依頼させていただく。

○新しい情報（コンポストの活用）に触れたことで、自宅の燃やせるごみの量が大幅に減少された。新しい情報に触れることは大切。（公募委員：羽賀委員）

○長崎市保健環境連合会の会長として長く活動しており、このような会議の協議結果を各組織の末端まで伝達させていくことが困難。長崎市（保環連）では子どもに目を向けた取組を実施。ごみ出しマナーが悪い若い保護者をターゲットに広報をした。子どもたちから募集したイラストをごみ袋に印刷（4～5年前からは標語も募集）している。住民向けの啓発は、広報誌の活用も効果的。生ごみひと絞り事業の実施方法は、様々な意見が出たため、4R部会として、この事業を啓発していくという方向性で考えていけばよいのではないかと。（長崎県保健環境連合会会長：島崎委員）

○資料②にある生ごみ絞り器の単価はいくらぐらいか。（公募委員：中島委員）

⇒ ●事務局回答：購入にあたり、スタイリッシュなデザインのものも検討したが、高価だったため、それよりも安価なものとして、今回の水絞り器具を購入した。

○防災士として活動中だが、災害時のごみ問題も課題。（埼玉県）八潮市の道路陥没事故のように災害時は、排水もごみとなる。汚水をいかに出さずに、資源循環させていくかなども、今後4R部会で議論していける事項だと思う。（公募委員：松本委員）

○下水や水資源の削減も課題になっていくと思う。（4R副部長：中道委員）

○先般、東京で環境関連の会議に出席し、政府関係者等も登壇する中、パネリストとして出席した。会議の中では、これからはリニアエコノミーからサーキュラーエコノミーへ移行していくことが重要との話になった。当社でも有機物を資源に変えること（ごみが資源になる）施設導入を予定している。（県クリーン事業協同組合：菅原理事）

○生ごみひと絞り事業については、本日頂いたご意見を参考に事務局で実施方法を検討し、4月以降、改めて皆様に依頼があると思うので、その際はご協力いただきたい。（4R副部長：中道委員）